

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17104005	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	非対称ポテンシャルを用いたスピンドナミクス整流素子の作製と物性制御	研究代表者 (所属・職)	大谷 義近（東京大学・物性研究所・教授）

【平成20年度 研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>研究目標とした「非対称ポテンシャルによる磁壁ラチェット動作」は達成していないが、その周辺技術の構築において多くの成果を得てきており、今後の努力によって当初目標を達成することを期待したい。「スピン流制御」におけるスピン流偏向の試みでは、当初の手法が有効でないことを見出し、物質あるいは不純物が持っている非対称性に基づくスピホール効果を使った実験を進めている。ただし、まだ非対称な人工的ポテンシャルを導入する方法が見出されていない。この研究グループの関連分野におけるいままでの研究成果から判断して、今後相当の成果を挙げることが見込まれるので、今後の努力に期待したい。</p> <p>開拓的な基礎研究においては、必ずしも当初の目標がそのまま達成されるとは言えず、思わぬ方向に発展することがありうるが、その場合においても、当初目標と同等以上の成果を挙げてほしい。</p>		

【平成22年度 検証結果】

研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。
